

阿弥陀寺のしだれ桜

阿弥陀寺

鎌倉時代(一二一七年)に創建された親鸞聖人ゆかりのお寺。境内には樹齢三二〇年のしだれ桜がある。

夜の八時を過ぎているというのに、駐車場にはまだ車の出入りが見られた。僕は祖母の手を引きながら、ゆるい傾斜の坂道を上った。夜桜見物の人たちとすれ違ったときに、祖母は立ち止まり、誰かを探すようにその人たちを見送っていた。

ようやく登り切ったその先に、桜はあった。樹齢三百年のしだれ桜は、金色に輝く満月の光に照らされ、今を盛りと満開の花を開かせて、ゆう然としていた。春の夜風にゆれる度、長い枝に咲き乱れる花びらがきらきらと輝いている。僕はただ、その姿に圧倒された。

「夜桜を見たい。」

と突然言い出したのは、今年で八十歳になる祖母であった。普段は物静かで、ぜいたくなど言わない祖母が、何を思ったのか急に言い出したのは、テレビのお天気キャスターが、『今日は満月です。』という話題をふった時だった。一瞬、祖母以外の家族全員が顔を見合わせた。しかし、すぐに父が、何かに納得したように頷いて、「おばあちゃん、阿弥陀寺のしだれ桜のことですか。おばあちゃんが生まれた街にある、あの桜の木。あの桜が見たいんですね。」と、やさしく言った。

祖母は、さも嬉しそうに、にっこり微笑んだ。

寺の境内には、数名の見物客がいたが、誰もが、桜を遠巻きにし

しだれ桜

桜の一種で、枝がゆるく垂れかかる桜の総称。



阿弥陀寺のしだれ桜 (鴨志田氏提供)

てひっそりとたたずんでいた。まるで一枚の絵のようなその境内の有様に、みいられているかのようだった。

『おばあちゃんはきつと、この満開の桜の姿を僕たちに見せたかったんだろうな。』

月の光に照らされ、きらきらとまたたく桜の花を見上げながら僕は思った。

その時、かたわらから僕に問いかける祖母の声がした。

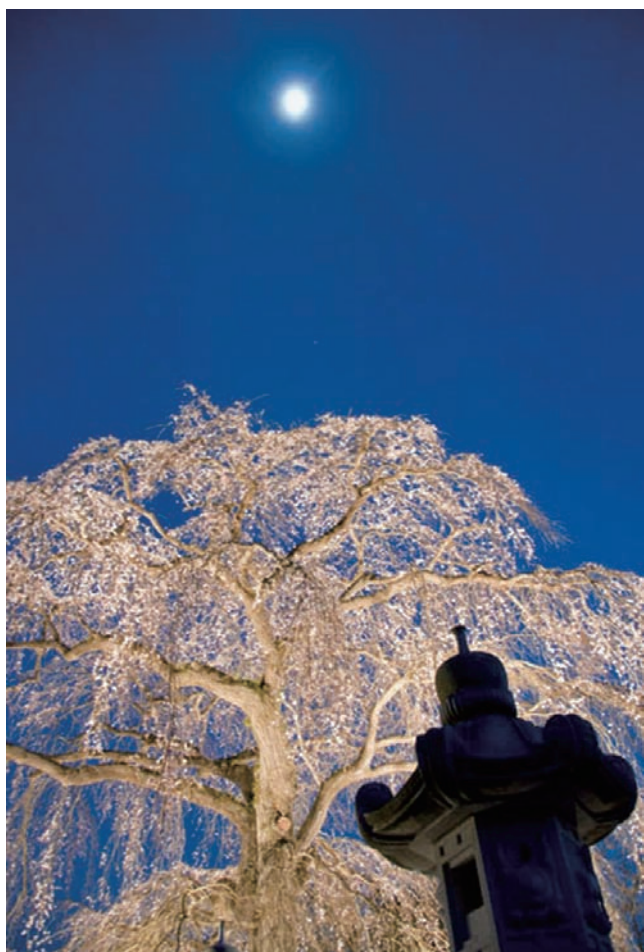
「トシオ。トシオは、この桜の木の美しさを感じるかい。」

祖母の問いは突然で、何を聞かれているのか一瞬わからなかった。とりあえず、僕は素直な感想を答えた。

「うん。すごくきれいだと思うよ。しだれ桜の花って初めて見たし、下に向かって流れる花がピンクのカーテンみたいに見えるし…。」

すると、祖母は僕の答えを聞き終わるか終わらないかのタイミングで話し出した。それはまるで、独り言のようだった。

「私は、小さい頃からこの桜の木を見て育ったんだよ。弟を背負い、妹の手を引きながら子守の最中に。それから、畑仕事や野菜を売りに行った帰りなんかだね。春の、花の季節だけじゃなく、夏も秋も冬もね。朝だったり、夕方だったりいろんな時に来た。でもね、いつもこの桜の木はあるんだよ。ここに、こうしてどっしりとね。花が散り、若葉の季節になっても。秋になり、葉が色づいてやがて落ちていき、みんな無くなっても、変わらずにどっ



阿弥陀寺のしだれ桜（鴨志田氏提供）

しりとね。自分の姿のありのままを、全てさらけ出しても、誇らしげな姿で立ち続けている。誰に見られても、見られなくても変わらないんだよ。この桜の木のお美しさはね、そんなお美しさなんだよ。」

祖母はそこまで一気に話きけると、何かを懐かしむように桜の木を見上げ、一人語りを終えた。僕は思わず、『そんなお美しさ』ってどんなお美しさなのかを聞き返したくなって、祖母を見返した。祖母はまだ、じっと目を細めて、満開の夜桜の木を見上げていた。その姿に僕ははっとした。そして、問い返すのを止め、同じように、桜の木を見上げながら考えた。

この美しい花もやがて散り、若葉の季節を迎える。四季折々に姿を変える桜は、本来一日として同じ姿はない。そして次の春が来れば、また美しい花を咲かせる。こつこつと月日を重ね、このしだれ桜はそうして三百年生き続けてきた。当たり前のように、一年一年を繰り返しながら…。祖母は、幼い頃から日々の生活の中で、その姿を見て大人になっていった。

「だから…。」

僕は、思わず声に出してつぶやいていた。その声が聞こえたのか、祖母が僕の方を見ていた。僕は少し大きな声でこう言った

「おばあちゃん、また来ようよ、ここに。その時は、おばあちゃんが言う『そんなお美しさ』が、少しはわかるようになっていくかもしれないから。」

祖母は、支えている僕の右手の甲を二回ポンポンと軽くたたくと、にっこり微笑んだ。

阿弥陀寺のしだれ桜は、三百年変わらぬその姿を、いつまでも満月にさらして、美しく輝いているのであった。

那珂市額田のしだれ桜

戦国時代この地域で活躍した額田氏の居城額田城跡に隣接する阿弥陀寺の境内にある一本のしだれ桜。本堂の正面にそびえ立つ桜の木は、由緒あるこの寺にとつて、象徴的な存在となっている。開花の時期には、近隣の市町村をはじめ、他県からも、その美しい姿を求めて多くの見物客が訪れる桜の名所ともなっている。開花時期には、夜のライトアップも行われ、幻想的な姿を見せる。